

新年のあいさつ

院長 朝 哲洋



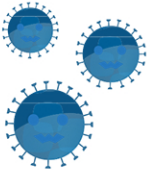
あけまして おめでとう ございます



ウイズ・コロナ

にむけて

昨年中は、多くの皆様にご支援をいただきました。心からお礼申し上げます。令和3年度は新型コロナウイルスの推進に明け暮れる1年でした。しかし、ワクチンの効果によりパンデミックの出口は少しずつ見えてきているように思います。オミクロン株がどのように流行するか



予断は許さないですが、今まで通り地域の皆様と一致団結した努力で乗り切っていくことができるかと確信しています。

まだまだ気が休まらない1年と思いますが、「虎口を脱する」のもそう遠くないと思います。ウイズ・コロナにむけて準備を進める年にしたいと思えます。



ドック・健診事業の充実

新聞報道によるとコロナ禍によるがん検診の減少によって、令和2年の新規がん患者は全国で6万人減少しました。この傾向は現在

も持続していると思われる遅れのがん患者さんが増える心配があります。ウイズ・コロナにむけて、積極的ながん検診の推進を行っていきます。

住民のみならずも全身の再チェックを行う年にしていただけたらと思います。

トヨタ生産方式に学びながらの改善活動

令和1年度から高森商工会のプロジェクト・チャレンジ事業に参加して、「トヨタ生産方式」に学びながら業務の改善を開始しました。

コロナ対策に追われ、昨年本格的な導入は進めることができませんでしたが、各職場で少しずつ改善活動は進みました。

今年も各部門の「ムリ」